白山ふるさと文学賞

第十五回　白山市ジュニア文芸賞　受賞作品

【島清部門】

中高校生　作文の部　優秀賞

「小さな頃から憧れた看護」

鶴来高校三年　中川（なかがわ）　凛香（りんか）

私は将来、看護師として、日常における質の高い看護に加え、災害が起きた時には迅速かつ柔軟に対応できる看護師になりたいと考えています。私が看護師になりたいと思ったきっかけは3つあります。

中学生のころ親とうまくいかず、家にいることが苦になっていたときがあり、夏休みや冬休みなどの長期休みになると、そんな家から逃げるように祖父母の家によく泊まりに行っていました。そんなとき明るく迎えてくれる祖父母がいて、当時の私は祖父母の家にいることや祖母が話を聞いてくれることが支えになっていました。誰かの役に立つことや誰かを支えることにやりがいを感じることがあり、祖母に話すと看護師になることを勧めてくれました。そのときはドラマの影響から「いいな！」「看護師かっこいい！」という単純な考えで看護師を目指すようになりました。

そして祖父が認知症を患った際、祖母から病気についてやエピソードを聞くうちに医療に興味をもち、自分から怪我や病気、感染症の原因や対処法、もちろん認知症についても調べることが増えていきました。また、認知症の影響による介護のストレスが祖母に溜まっていることに気づいたとき、私も一緒に支えて祖母の負担を減らしてあげたいなと思い、より認知症について調べるようになりました。

さらに、祖母が膵臓がんで入院したときは食べ物が喉を通らないほど悲しくなったことを覚えています。早期発見のおかげで、がんを摘出することができました。祖母が入院しているときに「看護師や看護学生がいつも明るく笑顔で接してくれて苦じゃなかった」と言っていたことと、看護学生さんが祖母の退院のときに「膵臓がんについて」や「生活するうえでの対処法」などが分かりやすく書かれたパンフレットを作って渡してくれて、「分かりやすくて退院した後も助かった」と自慢げに私に見せてくれました。ここからさらに看護師に魅力を感じ、看護職に就きたいと思うようになりました。

中学生のときに親とうまくいかず悩んでいた私を温かく迎えてくれた祖母の存在や、認知症になった祖父を支える中で感じた思い、そして祖母のがん治療を支えてくれた医療従事者の方々の姿。これらの経験を通して、私の中で「質の高い看護」とは何かという答えがはっきりと見えてきた気がしました。私にとって質の高い看護とは、単に医療の技術や知識を正確に提供することだけではなく、病気や怪我で不安を抱える患者さん、そして側で心配するご家族の「心」に寄り添い、安心感を与えることです。祖母が入院中、「明るい笑顔で接してくれたから苦じゃなかった」と語っていたことや、退院時に看護学生さんからもらった手作りのパンフレットを誇らしげに見せてくれたときの笑顔が、今でも忘れられません。あのパンフレットは、ただの病気の説明書ではなく、「退院してからもずっと応援していますよ」という温かいメッセージそのものだったのだと思います。相手の暮らしや不安な気持ちにまで想像力を働かせて、言葉や形にして届けることこそが、日常における「質の高い看護」の本質だと思います。そして、この「相手の思いを察して寄り添う力」は、災害という非常時において最も求められる力でもあると考えています。混乱する現場や限られた設備の中で必要とされるのは、冷静な判断力と、刻一刻と変化する状況に応じて早く動ける柔軟さだと思います。特に、祖父のように認知症を患っている方や持病を抱える高齢者の方は、避難所などの環境の変化によって大きなストレスを受けやすく、そうした言葉にならない「ＳＯＳ」をいち早く察知し、パニックの中でも一人ひとりに合わせた迅速な対応ができる看護師でありたいです。日常の現場で培った深い観察力と温かいコミュニケーションがあってこそ、極限の災害現場でも誰かを守る強い力に変わるのだと思います。

中学生の頃、ドラマを見て「かっこいい」と漠然と憧れていた夢は、身近な家族の危機や医療の温かさに触れる中で、私の人生をかけた揺るぎない覚悟へと変わりました。私が目指すのは、日常の病室では、そこにいるだけで患者さんが「ホッとできる」温かい存在であり、い

ざという災害の現場では「この人がいてくれれば大丈夫だ」と誰もが頼れる強さと柔軟さを持った看護師です。平時の穏やかな時間も、非常時の厳しい現場も、命の重さや生きようとする人の切実な思いに変わりはありません。どんな時でも目の前の人に真摯に向き合い、心と身体の両面から支えられる存在になりたいです。

その夢を果たすために、高校生である今の私にできる努力をひとつずつ重ねていき、学校での勉強はもちろんのこと、病気や医療に関する知識を自ら意欲的に学び、日常の中でも周囲の変化に気づける観察力と相手を思いやる心を磨いていきたいと思っています。不安を抱える人々に寄り添い、笑顔と希望を届けられる看護師になるために、私はこれからも自分の決意を胸に、夢に向かって真っすぐに突き進んでいきます。

